安全運転教育システム

NT-132シリーズ 運転適性検査装置

新潟通信機株式会社

外形寸法図

仕様

本体寸法	高さ 1306.5mm × 幅 590mm × 奥行 648mm	消費電力	本体／台	最大：約40W
本体重量	約45kg		処理部一式	最大：約970W

その他運転適性検査装置

模擬運転装置併用型（NT-131型）

二輪操作部は接続できません。

可搬型（NT-052型）

〈簡単に持ち運び可能〉

ご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。
水、湿気、湯気、ほこり、油煙等の多い場所に設置しないでください。火災、故障、感電等の原因となります。

新潟通信機株式会社

■製品改良のため、仕様及び外観は予告なく変更することがあります。
■印刷の関係上、製品の色等は実際のものと多少異なることがあります。

●本社・工場／〒950-8580新潟市中央区上所中三丁目14番8号
TEL 025-282-1800（大代表） FAX 025-282-1846
URL http://www.niigata-t.co.jp/

■支店

札幌	011-859-2134
仙台	022-387-1051
東京	042-590-7260
大阪	06-6926-2066
福岡	092-852-1127

■営業所

青森	017-764-1045	長岡	0258-21-1140
八戸	0178-21-1231	長野	026-223-0883
秋田	018-888-1371	金沢	076-267-8720
千葉	043-212-0031	京都	075-325-2373
静岡	054-200-5200	広島	082-508-0290
名古屋	052-509-1191	四国	089-946-5277
新潟	025-282-1817		

●ご用命はこちらへ

T2014.12

実績No.1の高齢者講習用をはじめ、プロドライバー向けの再教育用など各種運転適性検査ソフトを自在に組み合わせる事ができます。NT-131型模擬運転装置との接続も可能ですので、二輪受講者用としても活躍します。

処理部

受講者一人ひとりの進行状況を確認することができ、検査終了時には自動で結果をプリントアウトします。

二輪操作部（オプション）
（NT-932-OB型）

二輪操作部使用時

【型式による運転適性検査ソフトの組合せ】

型　式	高齢者講習用	C式	KM式	S式	N式（一般用）
NT−132N	●	−	−	−	−
NT−132N−S	●	−	−	●	−
NT−132KMN	●	●	●	−	−
NT−132KMN−S	●	●	●	●	−
NT−132KMN−P	●	●	●	●	●

高齢者講習用（N式）運転適性検査　高齢者講習用適性検査器の基準適合品

1. 単純反応検査

基本的反射動作能力を調べる検査です。
1刺激7試行　検査時間 約1分10秒

2. 選択反応検査

状況の変化に対する反応動作を調べる検査です。
3刺激24試行　検査時間 約3分55秒

3. ハンドル操作検査

注意力とその持続性、ハンドル操作の巧みさを調べる検査です。
検査時間 約3分30秒

4. 注意配分・複数作業検査

注意の集中と分散機能を調べる検査です。
3刺激30試行　検査時間 約2分55秒

S式運転適性検査　取消処分者講習用（組合せ自由）

1. 単純刺激反応検査

基本的反射動作能力の検査です。
1刺激5試行　検査時間 約30秒

2. 連続単純刺激反応検査

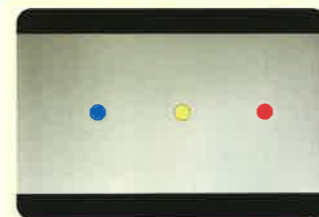
焦躁、弛緩反応動作等の検査です。
1刺激24試行　検査時間 約1分40秒

3. アクセル反応検査

選択的反応動作、抑制能力の検査です。
2刺激24試行　検査時間 約2分

4. アクセル・ブレーキ反応検査

信号刺激に対する踏み替え動作機能検査です。
3刺激27試行　検査時間 約2分30秒

5. 三選択反応検査

知覚運動系、統御能力の検査です。
3刺激24試行　検査時間 約2分50秒

6. ハンドル操作検査Ⅱ

認知、判断、処理、注意配分の検査です。
検査時間 約3分30秒

7. 側方反応検査

側方注意の集中配分能力の検査です。
3刺激40試行　検査時間 約3分15秒

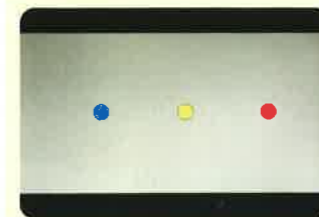
8. 速度見越反応検査Ⅱ

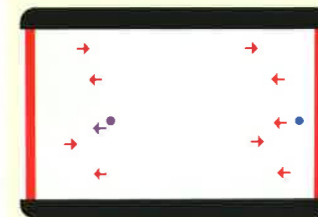
衝動抑止性機能の検査です。
10試行　検査時間 約1分20秒

C式運転適性検査　プロドライバーの再教育用

1. 速度見越反応検査

動作抑制機能水準の高さを調べる検査です。
10試行　検査時間 約1分20秒

2. 選択反応検査

知覚運動系の統御性を調べる検査です。
3刺激16試行　検査時間 約2分30秒

3. 処置判断検査

判断、処理能力を調べる検査です。
検査時間 約3分30秒

KM式運転適性検査　自動車運転事故の人的2大要因を検査化

1. 認知時間検査

認知反応時間の偏差及び突発的な遅延傾向を調べる検査です。
3刺激50試行　検査時間 約7分

2. タイミング検査

衝動抑止性（先急ぎ傾向）の強さを調べる検査です。
10試行　検査時間 約2分